

モデル事業名	集落支援センター創設プロジェクト
活動団体名	口羽をてごおする会（集落支援センター創設協議会を発展解消）
ホームページ	http://（活動団体のHPのアドレス） http://kuchibate5.exblog.jp/
所属／担当者名	事務局長 小田博之
連絡先	0855-87-0775、odah@hsnt.jp
活動地域	島根県邑南町口羽地域（シマネケンオオナンチョウクチバチイキ）

● 活動地域の概要



耕作放棄地が拡大する小規模高齢化地域

邑南町は島根県の中央部に位置し、広島県境に接している。平成16年に石見町、瑞穂町、対象地域のある羽須美村の3ヶ町村が合併し、人口12,506人、世帯数5,120戸（2009年1月住基）となった。本事業対象地域である口羽地区は、邑南町の最東部に位置し、本庁のある矢上地区から車で約40分の距離にある。口羽地区の人口は874人、世帯数373戸、集落数は20であるが大半が高齢率50%を超えている。今後小規模高齢集落がますます増加していく状況にある。

● 活動地域の課題

小規模高齢集落が増加してくると、農地管理委託、休耕田や家周辺の草刈り、独居世帯の交通支援や見守り制度等のニーズが増えてくる。また集落の伝統的行事の運営、集落運営型葬儀のような共同作業ができなくなってくる。もはや、集落構成員だけで地域を運営していくことは困難である。そのためには、ニーズに応じて高齢集落の自治活動を支援していく「集落支援センター」のような支援活動を実行する組織の創設が必要である。

● 活動の内容

全体

- ・ 県・町・住民代表・NPO法人で構成する集落支援センター創設協議会及び専門員会を結成
- ・ 高齢者世帯の全戸聴き取り調査を実施（107戸）。生活実態情報のデータベース化
- ・ 様々な要望に対する社会実験的支援活動の実施（①猿イノシシ防護柵設置支援②農地水環境事業の事務代行③和牛放牧雑草管理実験④交流受入のための古民家清掃、補修⑤出身者アンケート調査及び帰省交流イベントの実施 等）
- ・ 集落座談会巡回開催。行政機関へのアウトソーシング可能性調査実施。
- ・ 社会実験的支援活動の継続実施（①水田作付け管理状況調査、GIS化②独居高齢者世帯のお出かけ支援③出身者に向けてふるさと米を拡大販売④地区社会福祉協議会の中に住民主体の支援活動組織を正式発足 等）

（直近1年間の進捗など）

- ・ ふるさと米を拡大販売（年間2t見込み）
- ・ 支援活動人材の登録（30人登録）、支援活動開始（草刈2件、墓掃除1件、庭木の剪定1件、耕起1件）
- ・ 独居高齢者世帯のお出かけバスツアー8回開催、尾道学園出前コンサート受け入れ交流
- ・ 関西羽須美会の帰省イベント受け入れ交流、広島工大及び尾道大学学生による田舎体験受け入れ
- ・ 人材登録メンバーによる地域活動計画づくりワークショップ実施

● 活動の成果

・全体

- 小規模高齢世帯（107戸）の生活実態把握と支援ニーズの確認
- 獣害防護柵設置支援で集落共同管理による放棄地活用の有用性を確認
- 農地水環境事業事務代行による収益事業の可能性を確認
- 和牛放牧による雑草管理の効果確認
- 出身者へのアンケートを通じて、ふるさと米販売の可能性を確認
- 地区社会福祉協議会の中に「口羽地区をてごおする特別委員会」を創設
- 水田のG I S化によって、農地対策を総合的に進める態勢構築
- 高齢者の遠出を支援する会員制の「悠遊倶楽部」を発足と自立的運営確立



高齢者世帯への聞き取り調査

・直近1年間の成果など

ふるさと米の販売は年間2t、売上500千円に達しようとしている。はすみ出身者から近所知人関係まで広がり始めている。地元農家から30kg当たり8千円で買いあげているので、水田耕作維持への動機付けにつながると考えている。高齢者を支援する人材登録が30人に達し、出動態勢が整った、今年度は草刈依頼2件、墓掃除1件、庭木の剪定1件、菜園の耕起1件と、要請はまだ少ないが、手探りで進めるのにちょうどいいくらいの拡大スピードだと考えている。シルバー人材センターへの依頼を優先しているが、処理能力を超え始めていると聞いているので、これからだんだん依頼件数が増えたと予想される。高齢者世帯のお出かけバスツアーへの参加者を増やすため、「いきいきサロン事業」と連携して全世帯へ案内チラシを配布したり、尾道学園出前コンサートを受け入れ、子供と老人交流会場でPRするなどの取り組みをしたが、参加者拡大につながらなかった。今後は各集落ごとのミニサービスデーに訪問し、意見交換を重ねていく必要がある。今年度は計8回開催したが、会員制の悠遊倶楽部を主体として毎回15人程度の参加があり運営資金は参加者負担金で賄えた。このお出かけツアーの企画は大変喜ばれている。



お出かけツアーで買い物する高齢者

関西はすみ会の帰省イベント、広島市民団体の体験交流は現在も継続開催している。新たに広島工大及び尾道大学学生による田舎体験受け入れを通じて、空き民家の活用を図っているが、これら使用料で維持費を賄うことが可能となっている。

● 今後の課題及び展望

・課題

これまでの活動で小規模高齢化集落支援組織として「口羽をてごおする会」の存在意義がだんだん認められてきているが、支援活動の依頼件数はまだ少ない。少ない年金でぎりぎりの生活をしている高齢世帯がまだまだ多く存在していることが原因と考えられる。これら世帯にも低料金で依頼してもらうためには、ふるさと米の販売や行政機関からのアウトソーシング受託により、活動資金を増やしていく必要がある。また、収益事業が拡大してくると専従事務員、活動拠点の確保は必須となるが、この資金確保もめどが立っていない。

今後は様々な助成金制度の導入を図りながら、行政業務の受託やふるさと米販売拡大により少しずつ自立運営態勢を構築していくしかないと考える。活動拠点については地域内に行政機関やJA、休業店舗など活用できそうなものがいくつかあるが、管理条例、経営方針など個々の事情で気軽に使えることになっていない。当面は個々人の事務所やパソコン等の事務機器を無償で使わせてもらいながら、運営委員の善意に頼って進めていくしかない。

・展望（今後の取り組みや検討について記入）

町が検討している支援員制度により、人材配置要望し確保していく。

農地水環境事業、中山間地直接支払い事務等の受託事業拡大を図る。

新聞配達、電気料・水道料検針、宅配事業とセットで高齢者世帯への声かけ見守り活動展開を検討する。

農業生産法人の結成により地域全体の農地を総合管理する態勢づくりを検討する。

● その他（自由記述）